

ドキュメンタリー映画  
『シリーズ憲法と共に歩む』 第1篇

片桐 直樹 監督

大澤 豊さんを迎えて  
上映会  
&  
懇談会



2007.5.20 砧図書館集会室

ご挨拶

今日はようこそお出でくださいました。

いろいろ問題のある改憲手続き法案＝国民投票法案が国会を通過しました。憲法改悪のための第一歩が踏みだされたわけです。

憲法九条を改悪し、海外で戦争をする国にすることをねらう改憲派の動きを注視し、あくまでも九条を守る力を広げてゆきたいと思い、この会を企画致しました。これからも私たちはさまざまな催しをします。どうぞ皆様のまわりにもこの意図をお伝え、お広げ下さいますようお願い致します。

喜多見九条の会(準備会)  
砧・大蔵九条の会  
桜丘九条の会  
成城地域九条の会  
環境問題懇談会

#### お知らせとお願い

この映画は賛同する多くの方々の出資金及び協賛金で製作されました。

(成功させる会の呼びかけ・呼びかけ人等については裏表紙に載せてありますのでぜひご覧ください。)

上映は貸し出しのみで、映画貸出料金は5万円(100人未満の場合 DVD・VHS 90分仕様)と設定されています。(今回もこの形で借りました。)

そこで、映画製作支援、上映当日費用のため、皆様にご支援のカンパをお願いしたいと思います。多少にかかわらず是非よろしくお願ひ申し上げます。

## 今日の映画「戦争をしない日本」の内容

この映画は憲法公布60周年にあたり、日本国憲法とその平和主義をめぐる規定がなぜ、どのように誕生したのか、それは日本社会と国際社会にどのような役割を果たしてきたのか、日本国民と各階層はそれをどのように受けとめてきたのか、などについて歴史的な映像によって検証するものです。

具体的には次のような映像によって構成されています。

- ・「戦争」に備える自衛隊 — 自衛隊の存在と役割、米軍再編を問う
- ・なぜ日本国憲法は「戦争放棄・戦力不保持」を謳うことになったのか
- ・自衛隊の発足と海外派遣の背景にあるアメリカの意向 — その歴史の事実を知る
- ・基地反対闘争・安保闘争・核兵器廃絶のたたかいを学び国民の力を再確認する
- ・自衛隊の海外派遣がすすめられ、いよいよ「憲法改正」を唱える内閣が発足
- ・「九条の会」など憲法改悪反対運動の高揚

(ホームページ <http://filmkenpo.net/> より)

## 片桐直樹監督に聞く

### 「9条をとりまく歴史の事実を、映画を通して伝えたい」

(マガジン9条ホームページ「この人に訊きたい」より抜粋させていただきました。詳しくはホームページを是非ご覧ください。)



### ★60年間、日本人はどう「9条」と向き合ってきたか

憲法ができて60年が経つ今、日本人はどう憲法9条と向き合ってきたのか、そして9条は日本という国のあり方にどう影響を与えてきたのかということを、ちゃんと検証しておく必要があるんじゃないかと思ったんですね。

今、高校生の世界史や日本史未履修が問題になっているけど、ちゃんと授業を受けていた子たちでさえ、アジア太平洋戦争以降についてはほとんど教わらないというでしょう。それがまだ10年前のことだということならともかく、そこから既に60年の歴史があるのに。その意味でも今、若い世代に歴史の事実を伝えておく必要があると思ったんです。

### ★勝ち取ったものを継続する努力を

戦後の教育で、なるほど民主主義とはこういうものか、平和憲法とはこういうものかと、非常に感銘を受けていました。だから、最近になって「憲法改悪の潮流が」とか言われても、まさか、戦争であれだけの苦しみを受けた末にやっとできた平和憲法をそんな簡単に変えてしまうなんて、日本人はそんなにバカじゃないだろうと思っていたんですよ。

ところがある新聞社の世論調査では、60%が「改憲に賛成」と答えていました。それを見て、本当に驚いた。同時に、僕ら戦争を知っている世代は、これまで何をやってきたんだろう、自分たちの体験をちゃんと若い世代に伝えることをしてこなかったんじゃないか、という思いにもとられました。そういった反省も、今回の映画には込めたつもりです。

(編集部：こうした改憲への動きが強まった理由は、どういったことだとお考えですか?)  
一つは、やはり戦争体験者が少なくなっているということでしょうね。たとえば、60年安保がなぜあんなに国民的な運動になったかという、やはり戦争体験者が国民の7~8割を占めていたからです。

あのころは、そうした政府の強権的な動きに対して「また軍国主義か、また戦争か」と身構えるような感覚が国民のほうにもあったんですね。ところが60年安保より後は、徐々に戦争体験者の割合が少なくなっていくって、そういった感覚も薄まっていつてしまった。

結局、政府が日米安保条約をきっちり守っていくためには憲法改定しかないと、そういうところにまで追い込まれているのが、今の状況なわけですから。

## ★「ノー」の声を上げることで、この濁流を止められる

(編集部：でも、そうして私たちが「黙って」いる間に、改憲への動きはここまで加速化してきてしまいました。11月15日には、教育基本法改正案も衆院本会議を通過しましたし...。中川政調会長や麻生外相と、政府の要人からは「日本の核武装に関しても議論することが必要だ」との発言も出ています。)

本当にせば詰まった状況ですね。ここまで来てしまったのは、やはり国民の責任が大きいと思う。たとえば自衛隊にしても、憲法9条の条文を読んでもみれば、小学生だって明らかに今の自衛隊は憲法違反だということがわかるはずですよ。「戦力を持たない」と書いてあるんだから。それをここまで強大化させて、しかもそれを見過ごしてきてしまったのは僕たち自身なんです。

だけど、映画の中でも描いたように、改憲への動きというのは最近になって急に始まったものではなくて、憲法ができてまもない時期に早くも始まっていた。それを、市民がさまざまな形で声を上げて、ぎりぎりのところで止めてきたわけです。安保闘争だったり、恵庭や沖縄のような基地闘争だったり...。それが、改憲への歯止めになってきたことは間違いない。

だからこそ僕は『戦争をしない国 日本』をつくったんです。映画を見て、戦後の歴史を実際に体験してきた世代には、その歴史をもう一度思い起こしてほしいし、若者には「こんなことがあったのか」ということを知ってほしい。そして、この素晴らしい憲法を改悪しようとする動きに「ノー」の声をあげて闘ってほしい。そう思います。

今、日本国憲法を「改変」しようとする動きが強まっています。こうした状況の中で多くの人々が憲法について考え始めています。私たちはあらためて、日本国憲法とその理念を多くの人々と一緒に学び、考えていきたいと思えます。そして、その改悪を許さず、憲法を私たちの生活や国際社会に活かしていきたいと思えます。

私たちは、「ドキュメンタリー映画『シリーズ憲法と共に歩む』」の製作と普及を支援することにしました。「第一篇戦争をしない国日本」の製作・普及をぜひとも成功させ、第二、第三篇へと取り組みを継続させたいと思えます。

ぜひこの映画を多くの方々にご覧いただけるよう、ご支援・ご協力をお願い致します。

(2006年6月 ドキュメンタリー映画『シリーズ憲法と共に歩む』

製作普及を成功させる会 呼びかけ人一同)

### <成功させる会呼びかけ人代表>

小山内美江子(脚本家) 伊藤 真(「伊藤塾」塾長) 香山リカ(精神科医)  
鬼追明夫(元日弁連会長) 品川正治(経済同友会終身幹事)  
橘 祐典(映画監督) 辻井 喬(作家) 山田洋次(映画監督)

### <賛同呼びかけ人>

浅井基文(全民研会長) 新崎盛暉(沖縄大学教授) 有原誠治(映演共闘副議長・映画監督) 池辺晋一郎(作曲家) 石元 巖(全教委委員長) 石山久男(歴教協委員長) 井出本榮(全日本海員組合組合長) 井上 聡(青法協弁学合同部会議長弁護士) 碓氷和哉(民放労連委員長) 浦部法穂(名古屋大学大学院教授) 老田弘道(全農協労連委員長) 大西 広(全大教委委員長) 岡下進一(日青協会会長) 岡本 厚(「世界」編集長) 熊谷金道(全労連議長) 桑田富夫(生協労連委員長) 国分 稔(全商連会長) 駒場忠親(自治労連委員長) 小森陽一(東京大学教授) 坂本修(自由法曹団団長・弁護士) 佐藤陵一(建交労委員長) 猿田佐世(弁護士) ジェームス三木(脚本家) 新村 恭(出版労連委員長) 高田公子(新婦人会会長) 高田 健(許すな!憲法改悪・市民連絡会事務局) 高橋邦夫(映演労連委員長) 高橋利明(情報公開市民センター代表弁護士) 田中千恵子(日本医労連委員長) 堤 敬(東京地評議長) 鳥越俊太郎(ジャーナリスト) 中野 新(社会文化法律センター共同代表・弁護士) 新倉 修(国法協会会長) 早川弘道(日本私大教連委員長) 肥田 泰(全日本民医連会長) 姫井二郎(民青同盟中央委員長) 藤崎良三(全労協議長) 堀口土郎(国公労連委員長) 松本由理子(ちひろ美術館・東京副館長) 美浦克教(MIC 議長・新聞労連委員長) 水島朝穂(早稲田大学教授) 宮里邦雄(日本労働弁護団会長弁護士) 村中祐生(「宗教者九条の和」呼びかけ人世話役) 森 英樹(龍谷大学法科大学院教授) 安田憲司(全国港湾議長) 山内徳信(山内平和憲法・地方自治問題研究所所長) 山内敏弘(龍谷大学法科大学院教授) 山口宏弥(航空連議長) 山田和夫(映画評論家) 吉岡達也(ピースポート共同代表) 吉田有秀(全損保委員長) 渡辺えり子(劇作家・演出家・女優) (以下省略)

### このシリーズを企画した3人の監督のプロフィール

橘 祐典 監督 『どぶ川学級』『教室205号』『ガラスのうさぎ』『母さんの樹』

記録映画『にんげんをかえせ』『怒りの三宅島』『住井すゑ百歳の間人宣言』など多数。

片桐 直樹 監督 『裁かれる自衛隊』『自衛隊』『トンニャット・ベトナム』『生きるための証言』『日独裁判官物語』『人として生きる』など多くのドキュメンタリーを監督、一貫して社会的問題に取り組む。

大澤 豊 監督 『ガキ大将行進曲』『遙かなる甲子園』『ボクちゃんの戦場』『GAMA一月桃の花』『アイ・ラブ・ピース』『日本の青空』などの数多くの劇映画を監督。プロデューサーとして『戦争と青春』(今井正監督)『ベトナムのダーちゃん』(後藤俊夫監督)などを手がける。